

平戸市立中野小学校
令和3年度 学力の状況と向上のためのプラン

方 策 1	表現力の向上を図る。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○『長崎県読解力育成プラン』『長崎県授業改善メソッド』に基づき <ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、具体物、絵、図、式、言葉等を使って、自分の考えを表現する機会をできるだけ多く設定する。 ・算数科においては「じっくりタイム」「あのねタイム」「みんなでタイム」という、自分の考えをまとめたり、多様な考えや表現に触れたりする機会を設定する。 ・ねらいに即した「書く活動を重視する」授業を実践する。 ・授業の振り返りの場面で「書く活動」を位置づける。(根拠を明確にして自分の考えを書くように指導する。) ○学習の中で、ICT機器(書画カメラ、タブレット、クロームブック)を児童が活用できるようにする。 ○集会活動などで必ず発表の場を設定し、友達の考えと比べながら、考えを述べる力を高める。
検証方法: 目指す検証結果	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中の様子 ○学習後のノート提出 ○単元テスト: 記述問題への無解答を無くす。

方 策 2	基礎・基本の定着と活用力の育成を図る。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○国語と算数の小テストを月1回以上行う。(毎月末に算数の校長検定テストを全学年実施する。) ○学期に少なくとも1回、児童に全国及び県学力調査の過去問題を解かせ、間違いが多かった問題はゆめあこ等の関連問題に取り組ませる。(正解するまで行う。) ○日課の中に週3日読書タイム、月1回以上読み聞かせの時間を位置付け、本に親しむ習慣を身に付ける。 ○朝の時間に週1回程度「プログラミングタイム」「クロームブックタイム」を設定し、プログラミングスキルの向上・定着を図る。
検証方法: 目指す検証結果	<ul style="list-style-type: none"> ○平戸市学力調査: 同一集団前年比1ポイントアップ ○全国及び県学力調査: 全国・県比よりも高いポイント

方 策 3	家庭学習の充実を図る。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の「家庭学習のてびき」「自主学習の進め方」に基づいて各学年に応じた目標を設定し、家庭学習に取り組ませる。 ○「学びの約束」を教室に掲示し、学びの構えを身に付けさせる。 ○毎学期の5日間、PTA主催の中野元気っ子チェックカード(基本的生活習慣の確立)に取り組ませる。保護者から家庭での過ごし方についてのコメントを記述してもらう。
検証方法: 目指す検証結果	○家庭学習の点検: 各学年で定めた家庭学習時間の確保、宿題の提出状況や学習内容の定着具合を把握する。

◇ 学力向上プラン作成にあたって

長崎県授業改善メソッド（令和3年3月 長崎県教育委員会）の活用

1 「めあて（課題）」と「まとめ」が子供に届く授業

ポイント① 「まとめ」→ 「めあて」の順で授業を構想する。

身につけさせたい力や評価基準を踏まえる。

ポイント② 子どものことばを生かす。

分かったことやできるようになったことを問いかけ子どもの言葉を問いかけながら教師がまとめる。

2 ねらいに即した「書く活動」を重視する授業

ポイント① 理由や根拠を明らかにして書かせる。

ポイント② 文章で考えを書かせる。

ポイント③ 子どもの考えや気づきを見取る。

「振り返り」の場面で書く活動を行うことで、子どもは自身の学びや変容を改めて自覚する。また、「次の学び」に目を向けさせる。

EX 「はじめは」「つぎに」「最後には」「例えば」など順序や接続を表す言葉を用いて表現させる。

（長崎県読解力育成プラン「育成のポイント」より）

3 「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により安心して学べる授業 協働的に学ぶ場面では・・・

ポイント① 目的を明確にする。

何のために意見を交流するのかという目的を明確にする。

ポイント② 形態や対象を工夫する。

形態（ペア、少人数、全体） 対象（同じ考えの人、違う考えの人）